

マレーシア教育ディプロマ・ 美術教育マイナーシラバスについて

佐々木 幸*・福田 隆真

On the Education Syllabus for Malaysian Teaching Diploma; Art (Minor)

SASAKI Tsukasa* and FUKUDA Takamasa

はじめに

本稿は、マレーシアの教員養成機関である教員養成学院 (Maktab Perguruan) において適用されているシラバスのうち、3年制課程の教育ディプロマコースの副専攻としての美術教育のシラバスについて記述するものである。

マレーシアの教員養成は、国内各地に設置されている27校の教員養成学院においてなされており、その教育内容は統一カリキュラムによって規定されている。通常、教員養成学院には、中等教育を終えた入学者を対象とした3年制のディプロマコース、他大学で学士の称号を得た入学者を対象とする1年生の学士取得者コース (KPLI)、現職教員の再教育・研修を目的とする教員研修コースの3コースが設置されている。

ディプロマコースへの入学者は、希望に応じて主専攻と副専攻の教科 (科目) を選択して履修することとなっている。美術教育に関しては、主専攻として扱われることがないために、副専攻 (マイナー) として設定されている。

ここでは、そのシラバスを以下に記述し、マレーシアの教員養成における美術教育の具体的な内容の一端を紹介する。なお、資料は1999年度の最新のシラバスのものである¹⁾。

1. シラバスの全体構成

このシラバスの全体内容は、以下のように構成されている。

- ・巻頭言
- ・マレーシア国家教育哲学
- ・マレーシア教師教育哲学
- ・教師教育の概念モデル
- ・はじめに
- ・目的
- ・目標
- ・アプローチと方略
- ・カリキュラム構成
- ・付録

*北海道教育大学教育学部釧路校

「巻頭言」「マレーシア国家教育哲学」「マレーシア教師教育哲学」「教師教育の概念モデル」については、マレーシアの教員養成全般に関する記述であり、別稿ですでに述べているので本稿では割愛する²⁾。「はじめに」「目的」「目標」「アプローチと方略」「カリキュラム構成」については、美術教育および美術の教師教育に関する記述である。これらについて、次章以降、順に記述する。

2. 「はじめに」に関する記述

「はじめに」では、美術教育の全般的な理念や現代的課題都の関わりについて述べられている。「はじめに」の記述を以下に示す。

美術教育は、教師を目指す学生に対して、芸術的な興味、能力、人格を伸ばす機会を提供することを目的としている。この教科はまた、学校の教授・学習に適用できる様々な芸術的な価値に気づかせたり感じさせたりするためにある。教師を目指す学生は、思考やアイデアなどを、視覚言語を通して表現できるようにならないといけない。

美術教育は学生の知覚や美感、創造性を刺激することを通して、パーソナリティの質を高めるという役割と貢献を果たす。美術活動は、コミュニケーションメディアとしての役割、生活や環境における美術、受け継がれ、味わわれるべき市民社会にのシンボルである文化遺産としての美術、などの文脈から導かれる。

学生がグローバリゼーションやワールドクラスの教育に出会う備えとして、マルチメディアやデザインテクノロジーの使用が必要になる。

このような目標を実現するために、学生は現代のテクノロジーを身につけなければならない。例えば、コンピュータを道具として使いこなす技術や、美術作品において自信を高めるための自己学習メディアとしてのマルチメディアアプリケーションとなるインターネットなどである。

この教科における主たる目標は、教養と技術を兼ね備えた個人の創造である。それは、美術の価値と、文化遺産と国家のアイデンティティに対する美術の貢献を鑑賞することのバランスを試みることによってなされる。

3. 「目的」「目標」に関する記述

「目的」「目標」に関する記述を以下に示す。

目的

美術の学習は、批評的、創造的にものを考えたり、発明したりする能力はもちろん、美術教育において知識と技術の等しいバランスを習得した学生を養成することを目的としている。

目標

1. マレーシア教育ディプロマ美術教育カリキュラムは、以下の領域に焦点を当てている：

- ・美術教育教授、学習のストラテジー
- ・美術教育の理念

- ・美術史
- ・美術鑑賞と批評
- ・知覚と美的評価
- ・美術制作
- ・ドローイング

2. 上記領域の目標は、

2. 1 鑑賞の能力や制作の能力、そして美術の言語における知識の技術との相互作用の能力を高めること
2. 2 美術教育の知識や技術を、批評的に、創造的に用いることができる教師の専門的能力を高めること
2. 3 文化や文明の発展過程における美術及び美術家に関する知識や鑑賞、感性を伸ばすこと
2. 4 美術教育の発展における役割、社会的な影響、文化、経済、宗教に対する気付きをのばすこと

3. 上記の領域の実現のための、マルチメディア情報テクノロジーの知識や技術の使用

4. 「アプローチと方略」に関する記述

「アプローチと方略」は、主として授業形式及び方法に関するものである。その記述を以下に示す。

アプローチと方略

美術教育コース（マイナー）は、よりよい職業倫理、社会、文化、宗教的価値に対しての学習者の認識を改善できる教授と学習を生み出すために、多様な方略・方法や技術を通して実施される。

アプローチと方略については以下の通りである。

- ・講義
- ・理論と応答／批評セッション
- ・デモンストレーション
- ・リサーチと探索
- ・調査
- ・ディスカッション
- ・訪問
- ・ワークショップ
- ・フォーラム
- ・セミナー
- ・プロジェクト
- ・スクラップブック
- ・フォリオ

- ・ブレンストーミング
- ・問題解決

マレーシア教育ディプロマ

美術教育（マイナー）セメスター別

| セメスター1 | セメスター2 | セメスター3 | セメスター4 | セメスター5 | セメスター6 | 合計 時／単位 |
|---------------------------------------|--|---|---|---|--------|----------------|
| 認知と美学 (15時間・ 1単位) | | | | | 教育実習 | 15時間・ 1単位 |
| 美術Ⅰ (15時間・ 1単位) | 美術Ⅱ (15時間・ 1単位) | | | | | 30時間・ 2単位 |
| 美術史Ⅰ (15時間・ 1単位) | 美術史Ⅱ (15時間・ 1単位) | 美術史Ⅲ (15時間・ 1単位) | | | | 45時間・ 3単位 |
| 美術教育の理 念Ⅰ (15時間・ 1単位) | 美術教育の理 念Ⅱ (15時間・ 1単位) | 美術教育の理 念Ⅲ (15時間・ 1単位) | | | | 45時間・ 3単位 |
| 美術制作Ⅰ ・彫刻 ・織物 (30時間・ 2単位) | 美術制作Ⅱ ・グラフィッ ク ・木彫または 金属 (30時間・ 2単位) | 美術制作Ⅲ ・版画または 装飾 ・テキスタイル または陶芸 (30時間・ 2単位) | 美術制作Ⅳ ・絵画 ・伝統工芸 (30時間・ 2単位) | | | 120時間・ 8単位 |
| | 美術制作にお ける教授と学 習の方略Ⅰ (15時間・1 単位) | 美術制作にお ける教授と学 習の方略Ⅱ (15時間・1 単位) | | 美術制作にお ける教授と学 習の方略Ⅲ (30時間・2 単位) | | 60時間・ 4単位 |
| | | | | 美術鑑賞と批 評 (15時間・1 単位) | | 15時間・ 1単位 |
| 90時間・ 6単位 | 90時間・ 6単位 | 75時間・ 5単位 | 30時間・ 2単位 | 45時間・ 3単位 | | 330時間・ 22単位 |

5. 「カリキュラム構成」に関する記述

「カリキュラム構成」では、1～5セメスターにおける各科目の内容が網羅的に示されている。これに関する記述を以下に示す。

■セメスター1

トピック：知覚と美的価値 15時間（1単位）

目標：

1. 美術やデザインの基本的な原理、構造を理解すること。
2. 具象、抽象それに類する作品に対しての感覚的、強い経験を通して、美に敏感に反応する能力を与えること。
3. 視覚的・触覚的な感覚において、感じる能力や美的な反応を高めること。
4. 創造的な美術作品制作の経験を通して、美的な感覚を伸ばすこと。
5. 作品制作や実生活における美術についてのコミュニケーションの場で、美的な判断、評価、鑑賞ができる能力を高めること。

コースの内容：

このコースは、幅広い経験の発展に焦点を当てている。それは対象物や環境に対する美的な感覚であり、創造的な作品制作や、敏感で、批判的かつダイナミックなパーソナリティの発展における情緒や感覚を通してなされる。

細目：

1. 美術の基礎（6時間）
 1. 1 デザインの基礎
 1. 2 デザインの原理
 1. 3 デザインの構造
2. 美術の過程・創造性（6時間）
 2. 1 創造的な活動
3. 経験と美的判断（3時間）
 3. 1 視覚経験
 3. 2 強い経験
 3. 3 活動的・直接的経験
 3. 4 美的経験
 3. 5 美的判断
 3. 6 美的評価

■セメスター1

トピック：ドローイング 15時間（1単位）

目標：

1. ドローイングにおける画材、技術、方法を認識し、使えるようにすること。
2. ドローイングの原理と構成における知識と技術を発展させること。
3. 感覚や、アイデア、美的な経験を、視覚的な形態に表す能力を高めること。

コースの内容：

このコースは、様々なドローイングの画材の使用を通しての技術や実践に焦点を当てている。また、ドローイングがアイデアや感覚や美的な経験を表現していくその原理や構成についても焦点を当てている。

細目：

1. 画材、材料、道具（2時間）
2. ドローイングの原理と構成（8時間）
 2. 1 フォーマット
 2. 2 空間
 2. 3 角度
 2. 4 面
 2. 5 構図
3. ドローイングの方法（5時間）
 3. 1 グリッド
 3. 2 窓
 3. 3 模写
 3. 4 観察

■セメスター1

トピック：美術史1：西洋美術史 15時間（1単位）

目標：

1. ルネッサンスから現代にいたるまでの西洋美術の歴史の発展を学ぶこと。
2. ルネッサンスから現代にいたるまでの西洋美術の様式、過程、技術、アイデア、文化についてその特徴を比較し、対照すること。
3. 美術における技術の向上、知識、個性を刺激するために、歴史的な経験をを用いること。

コースの内容：

このコースは、人間の理想や市民社会を標榜した西洋における美術の発展に気づかせることに焦点を当てている。美術や文化に発展に貢献した作家の鑑賞、作家の個性や作品の質の発展における歴史的な経験を学ぶことなど。

細目：

1. 西洋美術の発展（15時間）
 1. 1 ルネッサンス（3時間）
 1. 1. 1 ロマン主義
 1. 1. 2 古典主義
 1. 1. 3 自然主義
 1. 2 19世紀から20世紀の美術（12時間）
 1. 2. 1 印象主義
 1. 2. 2 後期印象主義
 1. 2. 3 超現実主義
 1. 2. 4 表現主義
 1. 2. 5 立体主義
 1. 2. 6 抽象表現主義
 1. 2. 7 ポップ・アート

■セメスター1

トピック：美術教育の理念：マレーシアにおける美術教育 15時間（1単位）

目標：

1. マレーシアにおける美術教育発展の歴史、また文化や政治的な状況が発展に与えた影響を知ること。
2. 国家教育哲学を達成しようとするマレーシアの美術教育が果たす役割について理解すること。
3. 美術教授・学習を成立させるためにカリキュラム、シラバス、計画についての知識や技術を高めること。

細目：

1. マレーシアにおける美術教育の歴史（4時間）
 1. 1 英領時代
 1. 2 独立以後
 1. 4 美術教育の機関
2. 美術教育のカリキュラムとシラバス（11時間）
 2. 1 美術教育の哲学
 2. 2 目的と目標
 2. 3 KBSR と KBSM の美術教育シラバス

■セメスター1

トピック：美術制作 30時間（2単位）

目標：

1. 美術、コミュニケーション、工芸における道具、技法、過程についての知識や技術を高める。
2. 展覧会における美的なプロセスの適用に関する知識を高める。
3. 美術作品制作において作品の価値を鑑賞すること。
4. 美術制作に対する感覚、美的な反応を高めること。

コースの内容：

このコースは、美術工芸の活動における手作業の工程のマネージメントに焦点を当てている。

細目：

1. 美術制作
 1. 1 美術とコミュニケーション
 1. 1. 1 彫刻または環境（15時間）
 1. 2 工芸
 1. 2. 1 織物（15時間）

■セメスター2

トピック：ドローイングⅡ 15時間（1単位）

目標：

1. ドローイングでものの特徴を伝達するビジュアルアートのコンセプトや原理を明らかにする中で、技術をマスターすること。
2. ドローイングと同じような特徴をもつ美術活動を理解する。
3. 視覚や美的鑑賞力を高めること。

コースの内容：

このコースは、抽象的な視覚芸術のコンセプトの教授を行う。例えば、3次元の形態、距離、空間、環境、平面におけるボリューム、ドローイングにおける物体や構造の分析の理解などについて。

細目：

1. ドローイングの技法（3時間）
 1. 1 ハッチング
 1. 2 十字模様
 1. 3 グリッド
 1. 4 平行線
 1. 5 重なりの線
 1. 6 なぐりがき
2. 透視図法（3時間）
 2. 1 一点透視図法
 2. 2 二点透視図法
 2. 3 三点透視図法
3. 重点学習（9時間）
 3. 1 人物
 3. 2 風景
 3. 3 静物

■セメスター2

トピック：美術史Ⅱ——マレーシアにおける視覚芸術の歴史 15時間（1単位）

目標：

1. 独立前及び独立後のマレーシアにおける視覚芸術の歴史や美術教育機関の発展を追うこと。
2. マレーシアにおける視覚芸術の様式や技法、制作過程について、その影響と貢献を比較すること。
3. 美術に対する技術や知識の発展を刺激し、高めるために歴史に関する知識や経験を使うこと。

コースの内容：

このコースは、マレーシアにおける美術の歴史に気づかせることに焦点を当てている。美術や文化の発展に対する作家の貢献を学ぶ。美術作品や個性の質を高めるために、歴史に関する経験から気づかせること。

細目：

1. マレーシアにおける視覚芸術の歴史（15時間）
 1. 1 著名なマレーシアの作家たち（7時間）
 1. 1. 1 独立前の作家たち
 1. 1. 2 独立後の作家たち
 1. 2 マレーシアの美術作家組織・グループ（6時間）
 1. 2. 1 ナンヤンアカデミック
 1. 2. 2 水曜美術協会
 1. 2. 3 アートカウンシル
 1. 2. 4 マレーシア芸術協会
 1. 2. 5 マレー半島美術家集団
 1. 2. 6 子どもの世界
 1. 3 マレーシアにおける美術教育機関（2時間）

■セメスター2

トピック：美術教育の原理Ⅱ 美術教育における理想 15時間（1単位）

目標：

1. 教授・学習の場面における美術教育のコンセプトと原理を理解すること。
2. 教育者、デザイナー、工芸家、芸術家としての美術教師の役割を知ること。
3. 批評力があり、想像力があり、創造力があり、革新的で、創意に富み、感覚に優れた美的な判断ができる能力をもった教師を養成すること。

コースの内容：

このコースは、多様な局面における美術教育の知識の拡大に焦点を当てている。例えば、美術教育の理論の基礎的な価値観からは離れて、考える技術、職業的な技術、創造的な美術活動を通じた問題解決など。

細目：

1. バウハウス・デザインのコンセプト（2時間）
2. 美術教育のコンセプト（8時間）
 2. 1 ジョン・デューイ
 2. 2 フランツ・チゼック
 2. 3 ハーバート・リード
 2. 4 ビクター・ローウエンフェルド
3. ゲシュタルト知覚理論（2時間）
4. イスラムから見た美術教育（3時間）

■セメスター 2

トピック：美術制作Ⅱ 30時間（2単位）

目標：

1. 美術、コミュニケーション、工芸の活動における道具の使用、技法や過程について、その知識や技術を高めること。
2. 展覧会のための美術過程の応用や実行を通して、知識を高める。
3. 美術作品制作において、良き倫理観と前向きな制作態度を実践すること。
4. 美術や工芸に対して美的な反応はもとより、美的な判断力を高めること。

コースの内容：

このコースは、美術、コミュニケーション、工芸の活動を基盤とした作品制作における過程に焦点を当てている。

細目：

1. 美術制作
 1. 1 美術とコミュニケーション
 1. 1. 1 グラフィック（15時間）
 1. 2 工芸
 1. 2. 1 木彫または金工（15時間）

■セメスター 2

トピック：美術教育における教授・学習方略 15時間（1単位）

目標：

1. 美術教育の歴史、教授・学習のモデル及びモジュールについて理解する。
2. 多様な教授モデルから創造的な価値や多様な能力を教えること。
3. 教授の目的や方向性に沿って知識や教育技術を高めること。
4. 美術教育におけるコンセプトや方法、評価を明らかにすること。
5. 効果的な教授・学習の目的のための美術教育における多様な評価の形式や仕方についてマスターすること。

コースの内容：

このコースは、美術教育の新しい目標や方向性を基盤とした教授の多様なモデルやコンセプトを紹介することに焦点を当てている。評価のレベルや目的や仕方をもとに、公正な評価の技術をマスターする。

細目：

1. 美術教育における教授モデル（5時間）
 1. 1 工業
 1. 2 アート・アカデミー
 1. 3 自由で創造的な美術
 1. 4 応用美術

1. 5 心理学
1. 6 内容
1. 7 審美教育
1. 8 文化教育
1. 9 工芸の技術革新
1. 10 選択／統合
2. 美術室の管理（2時間）
 2. 1 身体的、情緒的、社会的な側面から見た美術室の趨勢
 2. 2 時間、素材、在庫の管理
 2. 3 安全と規律
3. 美術教師の役割（1時間）
 3. 1 管理者
 3. 2 世話人
 3. 3 支援者
4. 試験と評価（1時間）
 4. 1 美術教育における試験、管理、評価のコンセプト
5. 評価の書式と様式（6時間）
 5. 1 学校評価
 5. 1. 1 学校評価（PKBS）
 5. 1. 2 中等学校用学校評価（PKSM）
 5. 1. 3 多様な知能と技術のコンセプト
 5. 1. 4 最低限の能力
 5. 2 美術教育における試験と評価の書式と様式
 5. 2. 1 制作評価
 5. 2. 2 ポートフォリオ
 5. 2. 3 筆記試験
 5. 3 計画の立案
 5. 3. 1 分析的
 5. 3. 2 全体的

■セメスター3

トピック：美術史Ⅲ——東洋美術 15時間（1単位）

目標：

1. イスラム、中国、インドの美術の遺産や作品についての知識を増やす。
2. 文化、宗教的な価値、作品の機能などから東洋美術の影響やコンセプト、哲学を比較・対照すること。
3. 美術における技術、知識、個性に刺激を与え、高めるために東洋の美術に関する経験を使うこと。

コースの内容：

このコースは、東洋美術の遺産や作品に気づかせることに焦点を当てている。そのコン

セプトや哲学、東洋美術の影響について学ぶ。個性や作品の質を高める経験と同様に。

細目：

1. 東洋美術

- 1. 1 イスラム美術（5時間）
 - 1. 1. 1 カリグラフィ
 - 1. 1. 2 アラビック・デザイン
 - 1. 1. 3 建築
- 1. 2 中国美術（5時間）
 - 1. 2. 1 青銅美術
 - 1. 2. 2 彫刻
 - 1. 2. 3 陶芸・窯芸
 - 1. 2. 4 絵画
- 1. 3 インド美術（5時間）
 - 1. 3. 1 建築
 - 1. 3. 2 彫刻

■セメスター3

トピック：美術教育の理念Ⅲ 美術教育の心理学 15時間（1単位）

目標：

- 1. 個性の慎重、技術の育成、日常生活との関連を目指す美術教育の役割についての理解を高めること。
- 2. 教育プログラムの準備、効果的な教授のための方略や計画において、子どもの心理的な発達の知識を適用すること。
- 3. 教師としての感性や愛情ある態度を高めること。

コースの内容：

このコースは、子どもの心理に焦点を当てている。創造過程における発達、子どもの才能や可能性の発達段階における総合的な知性、子どもの視覚的な表現の発達に特に着目する。

細目：

- 1. 視覚的表現の発達（7時間）
 - 1. 1 ローウェンフェルドによる発達段階区分
 - 1. 2 青年期と視覚芸術
- 2. 美術教育における創造性（8時間）
 - 2. 1 創造性の定義
 - 2. 2 創造的個性の特徴
 - 2. 3 創造的思考への刺激
 - 2. 3 美術における創造的プロセス

■セメスター 3

トピック：美術制作Ⅲ 30時間（2単位）

目標：

1. 美術、コミュニケーション、工芸における道具、素材、プロセス、技法についての知識や技術を高めること。
2. 芸術的なプロセスや展覧会の実施における知識を高めること。
3. 美術制作における倫理観や建設的な作品の価値を味わうこと。
4. 美術制作に対する美的判断や美的な反応における能力を高めること。

コースの内容：

このコースは、美術、コミュニケーション、工芸の活動を基盤とした制作工程に焦点を当てている。

細目：

1. 美術制作
 1. 1. 1 美術とコミュニケーション
 1. 1. 2 印刷またはインテリアデザイン（15時間）
2. 工芸
 1. 2. 1 テキスタイルまたは陶芸（15時間）

■セメスター 3

トピック：美術教育の教授・学習方略Ⅱ 15時間（単位）

目標：

1. 美術教育における効果的な教授・学習方略の基礎的な知識と技術を理解し、獲得すること。
2. 美術教育における計画性やプログラムについての能力を高めること。
3. 効果的な学習における教育支援の構造とデザインについての能力を高めること。
4. 効果的な方略、選択、方法、教育技術の能力を高めること。

コースの内容：

このコースは、主として教育計画、レッスンプラン、方略・方法の選択、効果的な教育支援やマルチメディアの知識や技術に焦点を当てている。

細目：

1. 教育実践
 1. 1 準備とレッスンプラン（10時間）
 1. 1. 1 教授の準備
 1. 1. 2 レッスンプラン
 1. 2 教授・学習の方略
2. 教育支援と教授・キット（5時間）

2. 1 情報獲得の能力
2. 2 教授・学習資源の選択と評価
2. 3 教授・学習資源の使用と創造

■セメスター4

トピック：美術制作Ⅳ 30時間（2単位）

目標：

1. 美術、コミュニケーション活動、工芸におけるメディア、道具の技法や工程についての知識や技術を高めること。
2. 展覧会や展示における芸術的な過程についての知識を高めること。
3. 制作過程において見いだされるべき倫理的な価値や建設的な態度を理解すること。
4. 美術作品や工芸制作の過程を通して、制作に対する美的な反応はもとより、感覚と美的な判断力を高めること。

コースの内容：

このコースは、コミュニケーション美術や工芸活動を基盤とした制作過程の運営活動に焦点を当てている。

細目：

1. 美術制作
 1. 1 美術とコミュニケーション
 1. 1. 1 絵画（15時間）
 1. 2 工芸
 1. 2. 1 伝統工芸（15時間）

■セメスター5

トピック：美術教育における教授・学習方略Ⅲ 30時間（2単位）

目標：

1. 教室（美術教室）におけるコンセプトと教育技術を明らかにすること。
2. 理念、目標や教育技術について計画すること。
3. 効果的な教育技術を習得すること。
4. 教授を正しく評価する能力を高めること。
5. 教授・学習における美術教育の過程を理解し、適用すること。

コースの内容：

このコースは、主として教室や美術教育における教育技術（教師の振るまい）、教授・学習方略の効果に対して焦点を当てている。

細目：

1. マイクロティーチング（13時間）
 1. 1 美術教育の教育技術

- 1. 1. 1 美術とコミュニケーション
- 1. 1. 2 工芸
- 1. 1. 3 日常生活における美術
- 1. 1. 4 美術鑑賞
- 1. 1. 5 美術史
- 2. 自己評価と反映（2時間）
- 3. 美術教育の学習方法（10時間）
 - 3. 1 美術制作
 - 3. 2 美術史
 - 3. 3 美術批評
 - 3. 4 美学
- 4. 美術教育の学習過程
 - 4. 1 芸術的・創造的過程
 - 4. 2 デザインプロセス

■セメスター5

トピック：美術鑑賞と批評 15時間（1単位）

目標：

- 1. 記述、分析、解釈を通して把握し評価する能力を高めること。
- 2. 美的な価値への気付きを通して、口頭、視覚的なコミュニケーション、美術制作、工芸、作家についてのレポートを書く能力を高めること。
- 3. 美術作品やその主張を分析、鑑賞の活動を通して、自己評価、プロフェッショナルリズムの質を高めること。

コースの内容：

このプログラムは、美術や環境に対する美的な反応を刺激したり、書いたり話し合ったりする中でのコミュニケーションの能力を高める活動に焦点を当てている。

知識：

- 1. 美術批評のプロセスと方法（6時間）
 - 1. 1 論理的なアプローチ
 - 1. 1. 1 美術の観察過程
 - 享楽
 - 文脈
 - 形態
 - 材料吟味
 - 1. 1. 2 美術の判断過程
 - 記述
 - 分析
 - 解釈
 - 評価

1. 2 心理的なアプローチ（4時間）
 1. 2. 1 自己体験
 1. 2. 2 他の体験
1. 3 歴史的なアプローチ（5時間）
 1. 3. 1 年代学
 1. 3. 2 価値
信仰・宗教
文化
社会経済
機能
 1. 3. 3 影響
 1. 3. 4 有効性と創意

6 まとめ

副専攻としての美術教育の履修単位数は、22単位（330時間）となっている。1997年版のシラバスでは、美術教育の履修単位は33単位となっていたため、1999年版のシラバスでは単位数が削減されていることがわかる。なお、セメスター6は、すべて教育実習に当てられる。

シラバス全体を概観すると、美術に関する様々な内容が、教員養成という目的を前提として設定されていることがわかる。美術理論、教育方法、美術制作、美術批評などの内容は、基礎的な知識や技術の習得とその発展に重点が置かれている。また、シラバスでは授業内容の細目に至るまで明記されており、単位数減に伴って教育内容の精選とともに細部に至る内容設定が徹底されたと考えられる。

このシラバスが全国の教員養成学院に統一的に適用されている事実を考慮すると、初等学校の教員の資質としての共通性を重視していることがわかる。統一カリキュラムと各学校段階における統一試験は、マレーシアの学校教育を特徴づける要素のひとつであり、こうした制度を維持するために、教員養成においても共通性が求められていると推察できる。

注

1) Education Syllabus, Malaysian Teaching Diploma, Art(Minor), Teacher Education Division, Ministry of Education Malaysia, September 1999.

2) 佐々木宰・中矢礼美・福田隆眞、「マレーシアにおける美術教育教員養成シラバスについて(資料)」、北海道教育大学紀要(教育科学編)、第50巻第1号、1999. において、1997年版の同シラバスを紹介した。